

研究活動ご報告

2025年度、暑い暑い夏でした。武庫川女子大学のある西宮では「夏日（25度以上）」「真夏日（30度以上）」ではまだまし、「猛暑日（35度以上）」が続きました。そしてあつという間の秋が過ぎて、お正月に雪がちらつきました。この気温差に適應できる人間ってすごいなと思いつつ、来年度はもう少し穏やかな気候であって欲しいと祈る気持ちです。

調査

今年度、質問票による調査は滞りなく進めることができております。すくすくコホート三重、武庫川チャイルドスタディのみなさまのご協力に感謝申し上げます。今年度で全員が高校卒業の年齢を迎えられました。ご実家を離れるお子さんも増えているかと思いつつ、転送のご希望にも対応いたします。ご遠慮なくお申し付けください。

20歳の質問票より、表紙に「別紙の調査説明書を読み、調査に協力することに同意します。」という一文が追加されています。回答を始める前に、必ずチェックを入れていただきますようお願いいたします。チェックが確認できない場合、回答していただいたデータを使用することができません。そのため事務局から、意志確認のためのお電話をさせていただくこととなります。どうぞお忘れなく、お願いいたします。

すくすくコホート三重のみなさんには、年末に20歳調査、21歳調査をお送りしました。今年度で Google Form を利用したwebによる回答も用意しました。昨年度よりご利用が少し増えましたが、やはり、見づらい、というご意見をいただいています。他のweb調査用に提供されているツールを現在検討中です。web回答は1月末で一旦終了とさせていただきますが、紙の質問票は、いつでも受け付けております。父母等の方のみ、お子さまのみでも結構です。ご回答お待ちしております。

武庫川チャイルドスタディ 19歳の方、今年度は設定できる日数の関係で、インタビューのご案内ができませんでした。来年度はご案内したいと計画中です。20歳の記念にぜひご参加ください。高校3年生の方には、夏のZoomインタビューをご案内しました。ご協力いただいたみなさま、お忙しい中ありがとうございます。また、質問票のご返送をいただき、感謝いたします。まだまだ受験本番、という方もいらっしゃる



かと思いつつ、ご事情に合わせて、回答の時期をずらしていただいて構いません。お時間のある時に、あるいは、ちょっとした息抜きになるようでしたら、取り組んでいただければ幸いです。

研究発表

今年度もイギリス心理学会（発達心理学部門）にて成果発表を行いました。会場はロンドン、とはいえ都心からは離れたヒースロー空港近くの大学です。最寄駅前は住宅地で、途中数軒のお店を過ぎてからは何もなく、大学街のようです。ゆるやかな丘を20分ほど登っていくと、ロイヤル・ホロウェイ大学に到着しました。1881年に建てられた Founder's Building は歴史を感じる建物で、「ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅」他、映画のロケ地として使われたこともあるそうです。一方で今回の学会会場となった建物は、洗練されたデザインの新しい学舎でした。建物の間には森が残され、小径には点々と彫刻が配されていて疲れた頭を休められます。学会で幹旋された宿は大学構内の宿泊施設で、食事もお先ほど紹介した Founder's Building 内の、ずらりと肖像画が並ぶ食堂や、美しく整えられた芝生の中庭でしたので、3日間合宿のように過ごしました。お蔭で他の参加者と少し顔見知りになりました。

研究発表は、幼児期のがまんと児童期のがまんと関連についてでした。今回はさらに「やってはいけない」というがまんと「しなさい（他のことはしなさい）」という二種類のがまんに注目し、「やってはいけない」から「しなさい」ができるようになる過程を追いました。

今年度は3月に九州大学で開催される日本発達心理学会にも参加の予定です。新型コロナウイルス感染症に関連して追加調査をお願いしておりましたが、その中から、保護者の方々の就業状況と家庭内のコミュニケーションの変化について、また、乳児期の親の養育態度と児童期・青年前期の仲間関係意識について研究発表をする予定です。（難波）



今後の予定とお知らせ

2026年4月から2027年3月までの研究スケジュール

『すくすくコホート三重』では、20歳・21歳のみなさまに、12月に質問票をお送りしました。今年度のWEBによる回答は締め切りでしたが、紙の質問票による調査は、引き続きご返送をお待ちしております。2026年度も年末にご実家へ質問票をお届けする予定にしております。よろしくお願いいたします。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
21歳(高卒3年目)	新年度スタート!								郵送による質問票調査 (WEBあり)			
20歳(高卒2年目)												

『武庫川チャイルドスタディ』では、19歳（12月）、高校3年生（11月）のみなさまに質問票をお届けしました。今年度のWEBによる回答（19歳）は締め切りでしたが、引き続きご返送をお待ちしております。2026年度は、19歳調査、20歳調査を12月にお送りする予定です。よろしくお願いいたします。

また、2026年度の夏のインタビュー調査は、20歳の学年の方と、今年度ご参加いただけなかった方にご案内の予定です。時期はこれまで通り夏を予定しておりますが、冬になる可能性もございます。決まり次第ご連絡させていただきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19歳(高卒1年目)	新年度スタート!				インタビュー調査 (未定)				郵送による質問票調査 (WEBあり)			
高校3年生									郵送による質問票調査 (WEBあり)			

転居などでご住所や連絡先が変更になった方は、お手数ですが各研究グループへご連絡ください。お子さまのみお引越された場合、直接質問票をお届けすることもできますし、ご実家からご転送いただくなどに対応いたしますので、ご遠慮なくお知らせください。

また、お子さまが多忙、あるいは父母等の方が多忙、といった場合でも、**父母等の方のみ、お子さまのみのご継続**でもかまいません。もちろん、いつでも再開していただけます。ご都合に合わせて、細く長くお付き合いいただければ幸いです。今後ともご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

次年度より本格的に中山統括のもと、新体制がスタートします！今年度まで、日本学術振興会学術研究助成基金助成金より支援を受けて研究を進めて参りました。次年度は武庫川女子大学の特別研究費により研究を進めながら、再来年度の競争的研究資金獲得に向けて準備を進めていきます。みなさまからお預かりした大切なデータを守り、生かしていけるように活動を継続したいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。



【すくすくコホート三重】
〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL：059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学
教育総合研究所 子ども家庭部門(子ども発達科学研究センター)
TEL：0798-45-9870 FAX：0798-45-9880 Email：info@childstudy.jp

この研究は、日本学術振興会の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金:課題番号 23K25735)より研究支援をいただいています。



研究統括からのご挨拶

ニューズレター令和7年度号によせて

研究統括 武庫川女子大学

中山留美子



研究統括：中山留美子

スタートから20年がたち、河合優年先生がとうとう統括の役割を引退されました。この間、研究に協力して下さっているお子さんたちは、赤ちゃんから子ども、そして成人となられ、次々と新たな道を見つけて進んでいっておられることと思います。20年の間には、大きな震災やコロナ禍など生き方について考えさせられるできごともありました。家族ですらばらばらになってしまうかもしれないなか、自分の人生をどう生き、大切な人たちとどうつながり続けていくかということを考えることも多かったのではと思います。

私は河合先生から役割を引き継いで、武庫川女子大学教育総合研究所「子ども家庭部門」の所属になりました。他のスタッフのとともに、これまでにみなさんからいただいた貴重なデータに向き合い、社会に還元していきたいと思っています。私ごとですが、私自身、昨年の春に出産し、自分の子どもを養育する立場になりました。それまでは大学教員として、研究や臨床(カウンセリングなど)で子どもの発達に貢献したいと思ってきましたが、母親という新たな役割を得ることになり、今大きな変化を経験しています。みなさんからいただいた貴重なデータとともに、自分の変化も見つめていこうと思っています。

本研究は子ども(成人まで)の発達を対象としてきましたが、「生涯発達」といわれるように、人の発達は成人になったタイミングで終わるわけではありません。私たちは大人になっても社会人として、親として、地域の年長者として発達し続けます。一方で、私たちはいつまでも育ててきた／育てられてきた子どもとしての自分を抱え、その姿もまた、変化していきます。みなさんは、成人後にさまざまなライフステージの変化を経験されながら発達していきます。この調査がみなさんにとって、これまでの自分とこれからの自分を考える良い機会になってくれることを祈りつつ、研究を進めていく所存です。引き続き本研究にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

『すくすくコホート三重』から研究協力者のみなさまへ

三重中央医療センター 小川昌宏

皆様におかれましては、長期発達研究に長年ご協力いただき、心より御礼申し上げます。

本研究が始まってから、早いもので20年以上が経過いたしました。その間、私は小児科医として多くのお子様とご家族に向き合いながら診療と研究を続けてまいりました。医学は着実に進歩し、かつては治療法がなかった難治性の病気が、今では治療可能となる例も増えております。難しいと思われた課題も、決して解決できないものではないことを日々実感し、未来への希望を胸に診療にあたっています。

さて今回は、お子様の発達に深く関わる「脳が持つ力(可塑性)」についてご紹介いたします。

お子様の発達は、胎児期から生後早期に形づくられる脳の神経回路を土台として、日々の生活環境や周囲との関わりの中でさまざまなネットワークが築かれていくことで進んでいきます。その積み重ねにより、歩行や言葉によるコミュニケーションなどが可能となり、さらに高度な力を身につけて成長していきます。

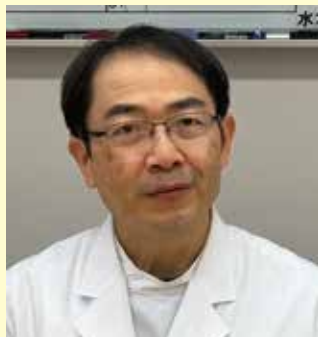
以前は、脳の回復力(可塑性)は生後早期に限られると考えられていました。しかし現在では、脳は成人後も生涯にわたって変化し続け、学習や記憶、リハビリテーションに役立つことが明らかになっています。例えば脳梗塞後に歩行が難しくなった場合

でも、適切なリハビリテーションにより新たな神経回路が形成され、再び歩けるようになることが知られています。このように、脳には常に回復し、成長しようとする力が備わっています。つまり、人の脳は生涯にわたって柔軟で、可能性に満ちた器官なのです。できることはさらに伸ばし、苦手なことも少しずつ経験を重ねることで、着実に力を育てていくことができます。

皆様にご協力いただいている本コホート研究は、お子様がどのような環境の中で成長していくのかを明らかにし、将来の子どもたちの発達支援に役立てることを目的としております。皆様お一人おひとりのご参加が、未来の医療や子育て支援につながる大切な力となっています。

お子様が本来持っている大きな可能性が十分に発揮され、これからも健やかに成長されることを心より願っております。

今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。



はじめまして。よろしくお願いいたします。 大阪大学 直原康光

2025年度より、研究に参加させていただくことになりました大阪大学大学院講師の直原康光と申します。私は、家庭裁判所調査官として約14年間勤務し、主に家庭内の紛争解決に関わってきました。家庭裁判所調査官という仕事があることは、あまり知られていないかと思いますが、家庭裁判所の内部に、心理学、社会学、教育学などの専門的な知識を持った家庭裁判所調査官という専門職がいて、法律で割り切れない様々な問題の解決のサポートをしています。たとえば、夫婦が離婚をする際、未成年の子どもをどちらが育てるかを巡って意見が一致しない場合などに、子どもを含む関係者から話を聴いたり、客観的な状況を調べたりして、どのような解決が考えられるかを父母と一緒に考え、時には助言するなどしてきました。

このような経験を活かして、大学教員になった現在

は、主に、家庭内の不和(例えば、両親のけんかや離婚など)が子どもにどのような影響を与えるかについて、長期的な観点から、そのプロセスを解明することを目指しています。さらに、研究で得られた知見を家族の支援に役立てるためにはどうすればよいかを常に意識するよう心掛けています。

また、親子の関係性と子どもの発達についても関心がありますので、皆さまにご協力いただいている貴重なデータをもとに、相互の関係性や、どのような変化が生じるのかなどについても、解明することができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



こども家庭庁のインタビューを受けました

これまでも協力者の皆さんには、協力いただいているこの研究が我が国においても数少ない追跡研究であることをお伝えしてきておりました。こういった追跡研究を対象に、こども家庭庁では聞き取り調査をしているということで、この追跡研究も目に留まったようです。この研究について詳細に聞きたいとの依頼が来て、1月23日に聞き取り調査を受けました。

内容は、子どもの追跡研究をしている研究グループを対象に、研究の経緯や継続して研究ができていく理由はどこにあるのかなどの、実態把握に関するものでした。私たちが準備した資料は、「すくすくコホート」のスタート時点までさかのぼるもので、地域や個人情報などを除いて、どのような視点から追跡をしてきたのか、その方法はどのようなかというような点について説明をさせていただきました。調査内容は皆さんが一番よく知っているのですが、発達過程における環境要因や心理的な要因についてのものであるとお答えしました。私たち研究グループにとっても振り返りのよい機会になりました。

今回の聞き取り調査に合わせて、これまでの研究について簡単にお話しをさせていただきます。皆さんにご協力いただいているこの研究が始まったのは2004年でした。皆さんのお母さんが健診を受けられたときに、三重中央医療センターと武庫川女子大学子ども発達科学研究センターから、協力依頼をさせていただいています。もちろんその時のことを皆さんが記憶しているわけではありませんが、0歳の時に観察室でお母さんとの相互作用のようすを観察させていただいた方もおられるので、その時のことはひよっとすると覚えておられるかもしれません。

この研究は、赤ちゃんがどのような過程を経て大人になってゆくのかを調べるものでした。例えば小学校入学ということを考えてみると、みんな同じ時に入学

するのですが、その育ち方やみんな違ってきます。入学という通過点は皆同じですがそこへの道はみんな違うのです。私たちの研究グループは、この一人ひとりの発達過程をたどることによって、平均化することのよって消えてしまう個性を明らかにしたいと考えています。

この一人ひとりの育ちを追わせていただくために、4か月、9か月、18か月、30か月、42か月、5歳、6歳と調査をさせていただき、小学校入学後はすくすくコホート三重では小学校2年生で観察、武庫川チャイルドスタディでは隔年で観察か面接、質問票は原則として、1年に1回、3学期に調査(入学年度は春に追加調査)をさせていただきながら20年間続いてきました。またこの間には、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいましたが、それに伴い、環境・健康調査にもご協力いただきました。このように多時点での調査を続けられたのも、継続して協力してくださる皆様のご理解があつてのことと感謝しています。

聞き取り調査の中で、この研究に協力して下さっている方の人数の推移をお示しましたところ、こども家庭庁の方は、こんなにも多くの方が20年近く協力してくださっているのかと驚かされていました。その理由を聞かれましたが、協力者の方が研究の意義を理解してくださり、研究が持つ意味を理解してくださっているからだとお伝えしました。私たちが、ニューズレターを通じてみなさんに研究の様子をお伝えしていることも、ひとつの要因かもしれません。いずれにしても、皆さんの理解が無ければこの貴重な資料は収集できませんでした。

2時間半にわたる聞き取りを終えて、国も認める協力者からなる研究を進めていることを誇りに感じました。そのことをお伝えしたくて、急遽ニューズレターに加えさせていただきました。(河合)

2026年度の計画について

河合優年

昨年までの研究統括をしていました河合です。中山先生に引き継ぎましたが、2026年度計画までを担当しておりますので、今後の計画について簡単に報告させていただきます。

こども家庭庁の調査についてのところでもお話いたしました。みなさんにご協力いただいている「すくすくコホート」は国内でも有数の追跡研究となっています。2026年度も質問紙調査によってみなさまの状況をお聞きすることを計画しております。調査に協力いただいている皆様のおかげで、子どもが大人になってゆく過程でのこころの発達が解明されはじめています。みなさまのご理解と協力に感謝しております。

また、幼児期からの調査への回答などを一緒にみながら、これまでの20年を振り返って、乳児期のお母さんとの相互作用の様子を見ていただいたり、観

察場面や調査に回答していたころのことについてお話が聞ければ嬉しいなあと考えています。まだ計画段階にもなっていませんが、近い将来皆様にZoomなどを使ってのインタビューの協力をお願いさせていただきます。これまでの研究で、そのようなことがなされたものは世界的にも数件しか記憶がありません。そのような時が来ましたら是非協力をお願いいたします。

2026年度調査、よろしくお願いいたします。(河合)



THANK YOU!

これからのすくすくコホート三重と武庫川チャイルドスタディ

「子どもが成人したんだから、もう、この研究はおしまいだよね?」「いつまで質問票が送られてくるのかな?」と思われる方もおられるかもしれませんが、一般的に「発達」と言いますと、おとなになったら完成、というように捉えられがちです。しかし、人間は一生涯変化し続けます。成人して完成したらあとは衰えていくだけ、ということではありません。もちろん、肉体的な要素は残念ながら衰えていく部分は大きいものの、知的な活動や社会的な行動はより複雑になります。衰えたなら衰えた肉体で、また新たに環境に適応し、行動を変えていくのです。

2004年から開始されたこの研究は、「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」から始まり、乳児期、幼児期、児童期、青年期を経て成人までの社会性の発達を追いかけてきました。

私ども研究グループは、成人されたみなさまが、これから新しい環境でどのように適応されて、どのように社会的な行動を変化させていかれるのか、これからも教えていただきたいと思っています。そして、人生の先輩として歩んでおられる父母等のみ

なさまのご意見も是非お伺いしたいと思っています。

19歳調査以降は、お父さまがご実家に帰られる可能性のあるタイミングで、ということで年末にご実家へお届けしています。とはいえ、その時期帰省が難しいという方もいらっしゃるかと思いますので、転送や、送付先を分ける、お父さまへの送付は一旦お休みなど、柔軟に対応させていただきたいと思っています。こういう形でなら継続できるよ、ということがございましたらお知らせいただけましたら幸いです。今後とも、ご負担にならない範囲でご協力を継続していただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(難波)

